

上尾 歴史散歩

229 上尾の古い地名を

「江戸時代から^{ざる}策を作っていた村を歩く」 ～南村新梨子～

「ぐるっとくん」を上平北小学校西で下車し、道路は少々曲折しているが東へ向かって歩く。百メートルも歩くうちに、左右に二カ所の墓所を見ることがなるが、右側の墓所では小さな「六地藏」が参拝者を迎えてくれる。この六地藏は、文政八（一八一五）年の造りである。ここより上平北小学校の前を通り二百メートルも歩くと、細い排水路の橋跡と出合うことになる。この橋は「新梨子橋」と称し、宝暦十一（一七六一）年に南村と菅谷村が橋をめぐる激しい境界争論を起したことで知られている。訴状は江戸の奉行所まで出されるが、久保村などの役人が間に入り、「内済」の形で円満解決している（『上尾市史第三巻』）。

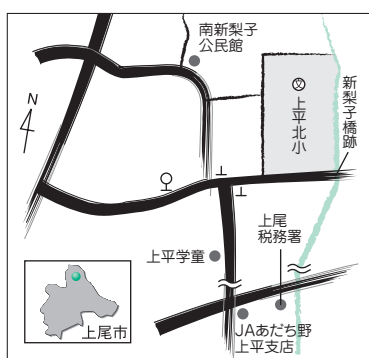


南新梨子公民館敷地内の「庚申塔」

新梨子橋を見て元の位置に戻ることになるが、北側の墓所のある三差路で右折する。百三十メートルも北上すると、右手に南新梨子公民館が見えてくる。公民館の敷地内に「庚申塔」があり、青面金剛・三猿の彫り込まれた見事な塔を拝観する。庚申塔は明和元（一七六四）年造立で、「南村新梨 講中四拾人」の文字が見える。江戸時代の南村の小字は「原・新梨子」の二つであるが、二つの集落はやや懸隔しており、その間に他村の飛地があつたりして大変複雑である。「新梨子」という小字名は隣接の上村にもあり、こちらは通称「上新梨子」と称されており、他地区から来た人には分かりにくい境界である。なお庚申塔の文字は「新梨」なので、この文字も使われたとみられる（『新編武蔵風土記稿』）。

この資料によると、南村では農間渡世として策作りが盛んで、在郷商人の須田家でも「七両分」の在庫があるとところをみると、手広に策類が販売されていたとみられる。この南村の策作りは昭和・平成と受け継がれており、江戸時代の農間渡世が現代まで存続した大変珍しい例である（前掲上尾市史）。

南新梨子公民館から西へ二百メートルも歩くと交差点となり、右折して東北方向に進む。この道路は古くは「菖蒲道」と称されたが、この道路沿いには近年まで策を作っていた「籠屋さん」が所在した所である。現在では昔の策作りの面影は見られないが、古い歴史を秘めた道筋ということになるのか。



市の人口・世帯

(平成22年3月1日現在)

22万6,657人

男/11万3,361人
女/11万3,296人

※前月より17人増。

9万1,257世帯



○に入る文字や数字を当ててください。

4月1日(木)から○○○○収集が始まります。

(ヒントは7ページ)

【賞品】 正解者の中から抽選で5人に、粗品を差し上げます。

【応募方法】 はがきかメールにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、『広報あげお』の感想を記入して、4月20日(火)まで(必着)に上尾市広報課「わくわくクイズ係」へ。

あて先: 〒362-8501本町3-1-1
メールアドレス: s55000@city.ageo.lg.jp

【発表】 賞品の発送をもって発表に代えさせていただきます。 ※正解は5月号のこのコーナーで。前号の答えは「上尾」でした。ご応募ありがとうございました(応募者43人)。

◆「広報あげお」は、各支所・出張所、JR上尾駅・北上尾駅のほか市内の各公共施設、金融機関などに置いてあり、自由に持ち帰れます。
◆環境保全のため、市内の公共施設へのお出掛けは市内循環バス「ぐるっとくん」をご利用ください。

【おわびと訂正】 3月号歴史散歩2段目後ろから3行目に誤りがありました。おわびして訂正します。 誤: 武蔵国群村誌 → 正: 武蔵国郡村誌